

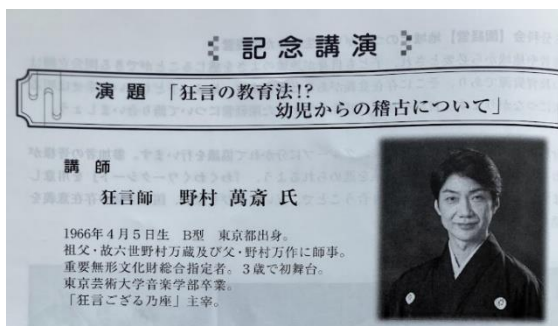


7月30日(水)「園長先生、どこに行ってたの?」「勉強しに行ってたんだよ。」

「おじいちゃんになってもまだ勉強するの?」

全国国公立幼稚園・こども園教育研究協議会東京大会(7月25・26日)と北海道国公立幼稚園・こども園協議会全道研究大会(7月28日)に参加してきました。◆全国国公立幼稚園・こども園教育研究協議会の全国大会は、前身の幼稚園教育研究会から72年の歴史があります。日本の幼児教育をリードしてきた団体です。公的教育機関として、国公立であるがゆえの「中立性・公平性・安定性」は、わくわく園もそうですが、地域の信頼の拠り所として、その存在意義は極めて大きいものがあります。また、幼児教育は、人格形成の基礎を作る重要な時期です。そのため保育者には高度な専門性と、より質の高い幼児教育が求められています。

全国大会では、コロナ過や急速なIT化の進展による人間関係の希薄化と家庭の孤立化、氾濫する育児情報による混乱、サービス重視の多様な価値観の中での育児不安の高まり、経済的・時間的余裕の喪失、さらには特別な支援を要する子どもを抱える家庭への支援体制の不足など、多岐にわたる課題について協議しました。また、こうした現場の課題を基に国(文科省)に対して、「教育施策及び予算に対する要望書」を提出しています。また、中央教育審議会、衆参議員懇談会にも出席して、日本の幼児教育の推進に努めています。



東京大会の記念講演は、狂言師：野村 萬斎氏「狂言の教育法!? 幼児からの稽古について」

撮影が禁止されていたため、残念ながら講演中の写真はありませんが、最前列に座っていたので、目の前で見ることができました。オーラが違いました。お弟子さんによる「デモンストレーション「狂言講座」がありました。

「北海道から来ました」と言うと「北海道も暑いんでしょ! 熊が街中を歩いているの?」と皆さんから言われました。「熊は、厚い毛皮を着ているから、暑い日は山の中で涼んでいます。」と答えておきました。



7月31日(木) 「やる気にさせるサイクル」

子どもは褒められるとやる気が出ます。「やる気」が出るとやります。「やる」と成績が上がります。成績が上がるとまた褒めます。するとますますやる気を出して頑張ります。これが「やる気」にさせるサイクルです。ところが、怒られると「やる気」を失います。やる気がないと「やらない」ので成績も下がります。するとまた怒ります。するとますますやる気をなくします。これが負のサイクルです。どちらの回転になるかは、まず「褒める」か「怒る」かがポイントになります。

「怒る」(感情的)と「叱る」(諭す)は違います。

ときには叱るときもありますが、やる気を起こさせるような叱り方が大切です。でも、そんなことを考える暇もなく怒っていることが多いのではないのでしょうか? 「校長先生、あのね。昨日のテスト80点だったんだ。」4年生の子が、ちょっと悔しそうな顔で言いました。

「いつも100点だったら、先生は教えることがなくて困るから、1つか2つくらいはまちがってもいいよ」と言うのと「わかった。これからいつも80点とるよ。」と言いました。

「ダメダメ、100点とらないと・・・」

せっかくの札幌 7月27日(日) 修復された道庁赤レンガ庁舎を見学してきました。それから、映画「鬼滅の刃」(無限城編)を観てきました。公開から10日で興行収入128億円を突破する大ヒットを飛ばしています。なるほど、大スクリーンで観ると、迫力が違って大興奮でした。

残虐なシーンもありますが、感動して泣く場面もありました。家族愛や友情といった普遍的なテーマ、魅力的なキャラクターが、幅広い層に受け入れられていると感じました。



8月1日(金)

全道大会(札幌)の講演から 柴田愛子先生を迎えて



「やりたいことをわがままに。大人も子どもも“自分のまま”育つ」50年間保育に取り組んできた「りんごの木」代表・保育者：柴田愛子さん。

1948年東京生まれ。私立幼稚園に5年間勤務し、多様な教育方法に迷って退職。会社勤めを経験するも、子どもの魅力から離れられず、別の私立幼稚園に5年間勤務。1982年、3人の仲間と「子どもの心に添う」を基本姿勢とした「りんごの木」を発足。保育の傍ら、講演、執筆、絵本作りと様々な子どもの分野で活躍中。子どもたちが生み出す様々なドラマを大人に伝えながら、

“子どもと大人の気持ちのいい関係づくり”を目指している。

「“やりたいこと”には勢いがあるけど、“やらせたいこと”には勢いがないのよ。」そう話す柴田さんの目線の先には、削った石鹼と水を混ぜて泡立てて遊び出した子どもたち。代々伝えられてきたりんごの木の伝統の遊びなのとか。どれだけ大人が“やらせたいこと”をお膳立てしても、子どもたちの自主的な「やりたい！」には敵いません

子どもって、自ら生きる力がみなぎっているのよね～。子どもたちが「やりたい！」と言って、内容を何日も話し合って実現したんだけどね。やりたくない子もいるのよね。でも、それはそれでいいのよ！ 子どもが自ら育っていく姿を前に「生まれてきた以上、生まれてよかったと思える人生を辿ってほしい」という願いが芽生えて、その足しになる仕事がしたいと、幼稚園の先生になったの。(大島先生、林先生、高橋聖子先生も聞いてきました。)



ビアガーデンには行っていません。

~~~せっかくの札幌~~~

7月25日にリニューアルオープンした国指定重要文化財「道庁赤レンガ庁舎」を見学してきました。館内の展示も一新され、北海道の歴史、道内各市町村の情報も展示されていて、訓子府は蜂蜜が紹介されていました。観る価値は十分あります。入館料は大人300円、中学生以下は無料です。◆明治21年の創建以降、火災による焼失後の復旧工事や昭和43年の復元改修など幾度の改修が行われてきましたが、今回は、耐震対策を含めた大規模改修工事が行われ、創建当時の美しさが蘇りました。



8月4日(月) 今年の**学力テストの結果が公表**されました。

500Pが基準：小6国語489.9(前回比15.9P減)、算数486.3(20.9P減)、となり、この結果を文科省は深刻に受け止めています。北海道は、相変わらず全国平均よりも低い結果となっています。問題は訓子府ですが、どうなのでしょう？

架け橋プログラムに取り組んでいます。こども園での学びと小学校での学びを連続させること、全ての子どもに、生涯に渡る学びや生活の基盤となる資質・能力を育むものです。ですから、幼児教育は、**小学校以降の学習の土台**となり、思考力、判断力、表現力などの「**生きる力**」の基礎を育成します。

《幼児教育と学力は、深い関係があります》

◎学力向上への効果～質の高い幼児教育は、言語能力や計算能力の発達、社会情緒的スキルなど、遊びを通して、様々な領域の発達を促し、就学後のパフォーマンスにも良い影響を与えます。

◎学習意欲の育成～幼児期の遊びを通して学ぶことの楽しさを知り、意欲的に取り組む姿勢を身につけることが重要です。これにより、小学校以降の学習への意欲や態度を養うことができます。

こども園でしっかり遊んだ子は、勉強ができる！

学力の低い地域は衰退すると言われています。今の子どもたちの将来は、先行き不透明な時代だと言われています。だからこそ、確かな学力を身に付けておくのは必須です。学力の低い原因は勉強しないこと、やればできる。やらなければならない。当たり前のことです。学力に関心を持ってください。

8月6日(水) 「三つ心、六つ躰、九つ言葉、十二文、十五理で未決まる」



江戸時代の子どもの段階的養育法です。

3歳までに人間としての心の系(道理)をしっかり張る。6歳までにしつけを手取り足取りまねさせる。9歳までに人前でお世辞の一つも言えるくらいの挨拶ができるようにする。12歳には一家の主の代書ができるようにする。15歳で森羅万象(この世の全て)が実感として理解できるようにする。

江戸時代の男子は、15歳で元服(現代の成人式)でした。「子どもは大人を見て育つのに、手本を示す立派な大人が少なすぎるような気がします。想像力を働かせ相手を思いやり、実行に移す人が増えれば、潤いのある社会が戻るはず。」江戸文化の研究者はこう言っています。

教育学者が、それぞれ持論を展開し、さまざまな子育て情報(子育て本)が氾濫しています。昔の子育てを否定する考えもありますが、受け継がれてきた子育て法は、長い年月の間に洗練されて理にかなっているようにも思います。能や狂言、歌舞伎は世襲制で、3歳から稽古が始まります。10年かけてやっと一人前になると言われています。

卓球女子で活躍している伊藤美誠、平野美宇、早田ひな、石川佳純、福原愛選手などは、3歳から卓球を始め、中学生の時に全日本選手権に出場しています。3歳児を何もできない幼児と思ってはいけません。「三つ子の魂百まで」と言います

8月12日(火)

みんなおいでよ なつかしウィーク



延べ101人の参加がありました。「また、やってほしい!」という意見がたくさんありました。園児は、小学生と一緒に雑巾がけやドッジボールをして、「さすが、ちがうなあ!」と思ったらしく、憧れや真似をしようという意識が芽生えたようです。とてもよい機会になりました。

・8/4～15名 ・8/5～17名 ・8/6～14名 ・8/7～24名 ・8/8～31名 延べ101名の参加がありました。連続して来る小学生もいて大盛況でした。

- ・7月の広報に掲載し、ポスターを訓小、居小、訓中、支援センター、児童館、図書館、スポーツセンター、公民館、シティーに配布して周知しました。ところが申し込みが少なかったため、夏休みに入る前に、小学校2校と中学校に、チラシを再度配布しました。
- ・初日の参加者から、「すごく楽しかった。」という口コミがあり、その後参加人数が増えていきました。小学生との交流を通じて、遊び方、アイデア、工夫など刺激を受けて、園児にとってもよい10周年の事業になりました。
- ・参加した子が、帰る時に「冬休みもやって欲しいです。毎年、夏・冬休みもやって欲しいです。」という感想がありました。

◎幼小連携の観点から見ても、良い取り組みだったのではないかと思います。

夏休み、冬休みに開催できたら、小学校の先生に来てもらうのも良いのではないかと、また、園開放を2歳児のみではなく、0歳から中学生を対象にして、このような取り組みを夏・冬休みに行ってはどうか検討したいと思います。

今年1年、10周年記念行事が続きます。お楽しみに！

朝:「園長先生、何しているの?なぜ、せっかく咲いているお花をとってるの?」

日曜日、激しい雨が降りました。畑にも被害があったようです

玄関前のプランターを日当たりの良い場所に移動しました。日陰で、もやしのようにひょろひょろで元気がなかったからです。

今年のペチュニアは、きれいに咲いていますが、雨に弱く、手入れが大変な花です。今回の大雨で大打撃を受けました。きれいに長持ちさせるためには、毎日花殻摘みをしなければなりません。人権擁護の花いっぱい運動に参加しています。小野元教育長さんから、いただいた苗もあります。枯らすわけにはいかなく、毎朝の花殻摘みは欠かせません。



8月13日(水) お盆休み

5月のGW、年末年始の休業日と、お盆は、多くの企業や団体がお盆期間を休業日としています夏休みと結びついた結果、お盆休みが定着しています。

お盆は、ご先祖様を祀る日本古来の行事です。園では、「こども盆踊り」の曲を流しています。こうした伝統行事を大切にしたいものです。

「うちはね、お盆休みはないのよ。お盆こそ、かき入れ時だから!」 こども園も休みはありません。お仕事お疲れさまです。



8月14日(木) 開園10年 断捨離 器具庫の片付け

こども園は、収納スペースをたくさん作ってありますが、遊戲室正面にある器具庫と収納室は、10年も経つとモノでいっぱいになっています。

いらないもの? モノでいっぱいの器具庫

棚の上に何年もそのまま放置されていたモノや、保育所、幼稚園時代ものが山積みになっていました。もちつきの臼も古くなって使えなくなったので処分することにしました。処分した量は、トラック山積み2台分ありました。これも開園10周年記念事業ですかね?

8月18日(月) 何かおかしいと思いませんか?

ポケモンカード欲しさに、ハンバーガーは食べずに捨てる。社長が「配慮が足りなかった」と謝罪する事態になりました。野球部員の不祥事問題から SNS 炎上、甲子園途中辞退? 高野連の処分基準により出場を認めたものが SNS に屈した。未だに賛否両論の投稿が氾濫しています。選挙も SNS が影響するようになりました。



SNS は、使い方次第で私たちの生活を豊かにも、不幸にもする可能性があります。メリットとデメリットを理解し、責任ある利用を心がけることが大切です。

日本人の美德は「謙虚さ」「勤勉さ」「協調性」「礼儀正しさ」が挙げられます。これは日本文化や歴史の中で育まれ、日本人特有の行動様式や価値観に深く根付いているといわれています。それが失いつつあるようで怖いのです。教育の問題なのでしょうか?

問題が起きると「学力より道徳」という人がいますが、学力の高い人は、正しい判断ができるという人もいます。

「これって、おかしくない?」と感じる大人になってほしいものです。